

特別講演会の概要

開催日時 2019年12月1日(日) 13:30~15:30
講師 フリーライター 中西 あきこ氏 (「されど鉄道文字」著者)
東海旅客鉄道株式会社 相談役 須田 寛
テーマ 鉄道文字の歴史

概要

相談役の須田より「鉄道文字への想い」と題して、国鉄からJRへの文字のデザインをふりかえって、以下の話がありました。

- ・ 掲示、きっぷ等をデザイン化する上で文字とデザインは一体であり、お客様が鉄道を円滑に利用する上で、文字の大きさや形、色は重要であった。
- ・ 戦後、丸ゴシック体からデザイン文字のすみ丸角ゴシック体が変わるとき、導入された一部会社のひらがな文字は、文字に勢いがあり目立つようになった。ひらがなをデザイン化した成功例と言える。
- ・ 一方、昭和40年代から行先表示や方向幕などにスカート方式のデザインを採用入れ、さらに下部の帯で白抜き文字の表示が目立つものとした。
- ・ きっぷなどの新デザイン化は字の大きさを変えて不正乗車防止にも繋がった。
- ・ 駅名サインでは、文字とデザインが一体となり、文字が大きなウェイトを占めた。駅係員に尋ねなくてもよいサインが着眼点となった。



つづいて、中西氏から「鉄道文字の形と技」と題して、以下のお話をいただきました。

- ・ 鉄道文字を通じて、書体のルーツを探りたいと思い全国各所の駅名標などをたずねた。
- ・ 鉄道文字は時代によって書体の変遷がある。特に国鉄時代は手書きを土台としたため、携わる職人によっても字のかたちは異なった。
- ・ 鉄道の文字は、新幹線の誕生や東京オリンピック開催等、時代の要請に合わせて技術的な製法の進歩に基づき変化するが、掲示ルールで常に統一していくことを目指していた。



また、講演会の後、「JR東海の鉄道文字のひみつ」と題して、お二人によるトークショーを行いました。JR東海の鉄道文字の特徴については、「デザイン化の成功した理由はメリハリのある文字を採用できたことである」、「文字が生き活きとし、適度な余白もあって文字と調和がとれている」とのコメントを頂きました。今後も残したい鉄道文字への期待については、「文字が駅舎など全体をきれいに見せられるよう、建物との調和が大事である」、「誰に聞かなくても目的地まで行けるような案内掲示が理想。鉄道文字は親切な心のサービスでもあり、現在継承するすみ丸ゴシック体の価値を発信し続けてほしい」と期待のお言葉をいただき、閉会となりました。

以上